



2021・3・21

第 404 号

101-0065 東京都千代田区
西神田 2-5-7 神田中央ビル 303

TEL 03-3221-5075

FAX 03-3221-5076

たゆまぬ草の根の努力で世論に訴える

自衛隊基地の近くで系統的に

【群馬県高崎市／六郷九条の会】

高崎市六郷地域の六郷九条の会は2015年8月30日、戦争法に反対する市民が国会を包囲したその日に産声を上げた比較的若い会です。とは言っても、ご多分に漏れず約180名の会員の平均年齢は決して若いとは言えませんが、その年の12月からは毎月9日に地域内の交通量の多い交差点に立ってスタンディングを続けています。

「六郷九条の会」の幟、「九条は日本の誇り、世界の宝」と大書した横断幕を掲げ、毎回7～8名、多いときには10余名が参加し、代わるがわるそれぞれの思いをスピーチしています。毎回10時から1時間、暑いときも寒いときも、名物の寒風のときでも必死にがんばってきましたが、寄る年波には勝てず、最近は時間を短縮しています。相馬原自衛隊の基地が近いので、自衛隊の車が通ると力が入りますし、また手を振ってくれるドライバーがいると励まされます。

若者にアピールしようと、戦争法が強行された2015年9月19日を忘れない「19日行動」として、地域内の高崎経済大学の正門前で毎月19日のスタンディングも30分間で

菅政権に軍事分担強化迫る米新政権

3月16日、米バイデン政権誕生後初の日米の国務・国防両大臣による日米安全保障協議委員会（2プラス2）が開かれました。

共同発表文書は、中国の最近の「混乱を招く動きについて深刻な懸念を表明」するとし、うえて、「日米は、現状変更を試みる、あるいは、尖閣諸島に対する日本の施政を損なおうとする、如何なる一方的な行動にも引き続き反対する」とし、同時に、「台湾海峡の平和と安定の重要性」にも言及し、中国に対する同盟強化を強調しています。

文書はさらに、「核を含むあらゆる種類の米国の能力による日本の防衛にコミットメント」すると、核兵器禁止条約発効のもと、日本をアメリカの「核の傘」の下に置き続けることを公然と明記しています。

バイデン大統領のもとでアメリカはさらに日本の役割を強化しようとしています。

すが、翌年の10月から始めて今日に至っています。

安倍改憲は阻止しましたが、菅改憲の息の根を断ち切るまで、スタンディングを続

けます。

猛暑の中の宣伝に差し入れも

【宮城県名取市／名取九条の会】

仙台市の南隣の名取市。九条の会は2006年5月の発足以来、様々な活動に取り組みをしている。コロナ禍で憲法プラザや結成記念集会などが昨年から開催できずにいる。

「アベ政治を許さない」の3日行動は澤地久枝さんなどが呼びかけてから間もなく市内県道交差点で始め、お正月の厳寒期も欠かさず(強風で途中中止あり)スタンディングを実施している。毎月ほぼ2ケタの参加者で、道行く人々と車にアピール。暑いときには近くの方が冷えたジュースを差し入れてくれるなど励まされることもある。

今年2月から19日行動のスタンディングを名取駅西口で始め、「アベ・スガ改憲を許さず」を訴えている。(名取九条の会代表世話人・後藤不二夫)

コロナの中でもできることを

【和歌山県みなべ町／みなべ九条の会】

みなべ「九条の会」は、毎月欠かさずスタンディングをやっていると「九条の会・わかやま」の南本氏に聞き、3月6日(土)、坂本代表と二人で出かけました。

スタンディングは、オークワ前で午前10時から11時までの1時間。この日の参加は10人でした。

スタンディングと合せて、音の出る宣伝も。以前はマイクを握ってしゃべりましたが、コロナになってからは、毎回新しく、あらかじめ録音してきたものを流します。

この日の訴えの要点は大きく二つ。

一つは、核兵器禁止条約が発効したことで、その批准を拒否する日本政府の態度は恥ずべきものであること。

二つ目は付度について。日本学術会議会員任命拒否は、付度しなかった人たちが拒否されたもの。付度問題は菅政権の前、安倍政権から。森友・加計学園、桜を見る会…。そして今また総務省の接待問題。

こんな政権に政治を担う資格はないと訴えました。

みなべ「九条の会」では、3000万署名でも、先の戦争法反対の2000万署名でも、独自目標を達成してきました。緊急署名についてはコロナもあり、今はできることをやろうと活動しています。

たっぷり1時間の行動。片付けも手際よく、動きに無駄がありませんでした。

(「憲法9条を守るわかやま県民の会ニュース」3月号)

顔を見、目を合わせて訴え

【奈良県／平城ニュータウン九条の会】

平城ニュータウン九条の会は3月9日15時から、9名の参加者で近鉄高の原駅前では街宣とスタンディングをおこないました。街宣では「奈良県選出議員による緊急事態宣言下での銀座放蕩問題」「総務省の接待問題」「特措法の命より罰則の危うさ」「老朽原発再稼働の危険性」を訴えました。

「特措法は緊急事態条項加憲への布石」と訴えたチラシ100枚も次々と受け取ってもらえました。署名活動は「核兵器禁止条約の署名・批准を求める署名」と「改憲発議に反対する緊急署名」をおこないました。

若者が「祖父がヒロシマで被爆。追悼式

にはヒロシマに帰って参加している。いつも署名に協力している」と署名してくれました。通行人に署名をお願いすると、以前よりも反応がよくて、一人で9筆集めた参加者もいました。全部で14筆でした。

「憲法を守る署名です」「核禁止条約署名もお願いします」と訴えると高校生も書いてくれました。顔を見て、目を合わせて訴えると署名してくれます。（「九条の会奈良県ネットワーク」）

やむにやまれず始めたデモ

【和歌山県／憲法9条を守る和歌山弁護士会】 憲法9条を守る和歌山弁護士の会は16日、第81回「憲法の破壊を許さないランチTIMEデモ」を和歌山市で実施し70人参加。「憲法壊すな」「9条守れ」などコールしながら市内を行進しました。

金原徹雄弁護士は「このデモは集団的自衛権の行使容認の閣議決定がされる直前の2014年6月、阻止したいとのやむにやまれぬ思いで始まりました。当時の安倍政権は守らなければいけないものを無視する政権でしたが、引き継いだ菅政権も学術会議の任命拒否などまさに安倍政権の継承者で、よって立つところは同じです。このデモの意義は今も大きい」と力説しました。

沖縄戦の教訓を次の世代に

【沖縄県那覇市／小禄九条の会】

小禄憲法講座④はコロナ禍に配慮して、講演を変更し、2月20日「鉄血勤皇隊古堅実吉氏の証言一目の前に戦がやってきた」をDVD上映会として実施、177分という長編を熱心に視聴しました。首里から参加の

会員、喜瀬正幸さん（63）の投稿をご紹介します。

（紙面の都合で一部省略します—編集部）

* * * * *

沖縄戦における悲惨さ、残虐性を語る証言はこれまでもいくつか視聴する機会がありました。今回の古堅実吉氏の証言は、戦後75年の歳月が流れても、決して消え去ることのない痛苦の記憶として刻まれていることを改めて明らかにされた思いです。

当時の辛く、重苦しい記憶が今もなお痛みを伴って蘇ることを氏は絞り出すように語っています。

いきなり戦場へ 師範学校入学まもなく15歳足らずで鉄血勤皇師範隊に召集され、南部へ撤退する時、置いて行けと命令された重症の同僚を担ぎながら、途中、両脚を失い腕だけで体を移動させながら必死に進む負傷兵の集団に息をのむ。

生涯消えない痛み 畑のあぜ道で母親の死体の胸を這いまわる生後数か月の乳飲み子に遭遇する。誰もが立ちすくみ声を発しない、命令で組織移動する身でなすすべなく、立ち去ってきたことの疼きは生涯消えることはない。

あの子は誰かに拾われて戦後を生き抜いてくれたらどうか、そのまま命尽きてしまったのだろうか、91歳の古堅氏は今も胸の痛みを抱え続ける。 《中略》

師範隊に解散命令が出て、行動を共にしていた野田校長先生からの最後の訓示は、戦死した生徒百十名余の名簿を手に「こうなると思えば（軍命に）従うのではなかった。死んではいけない。決して死に急いではいけない！君たちは突破して背後の住民

と共に生きるんだよ。荒廃した沖縄のために君たちが力を尽くしなさい。」

古堅実吉氏は「大和魂、玉砕」の悲壮な苦しさ、ふっと許されたような不思議な思い、この訓示に勇気を貰い、胸に刻み、戦後の苦難にも立ち向かったと述懐され、私も感動しました。心から敬意を表したいと思います。 《中略》

古堅実吉氏は静かに力込めて訴えています。「再び戦争への道を繰り返すことだけはあってはならない。」氏の戦後のあゆみが「命かじり」の奔走である原点を見せて頂いた思いです。

私も遅ればせながら、襟を正し沖縄戦の教訓を学び始め、次の世代のためにこの教訓のバトンを大事に握りしめたいと思います。（「小禄九条の会ニュース」第83号）

《全国首長九条の会からのアピール》 核禁条約批准支持決議に誇り

元愛知県阿久比町長 石川 桂

アメリカでトランプ氏が敗者となり、勝者となったバイデン新政権に対し、日本政府は改めて『日米同盟の強化』を表明しました。

時を同じくして世界の国々の多くが、人びとの平和と共存への思いを込め『核兵器禁止条約』の発効にこぎつきました。今、人類は核や自然破壊の悪化等により生存権すら失する脅威にさらされています。しかし我が国政府は過去の戦争や原爆による計り知れない犠牲者を出した歴史の教訓を顧みず核兵器保有国の側に身を置き、「橋渡しをする」……？との態度を表明しているのです。

又、昨今、東京五輪組織委トップの女性蔑視発言による辞任や政府高官が業者の接待を受けている事があいつぎ、又、コロナ禍で自粛が叫ばれる中、夜の街を楽しむ政治家の報道等があいつぎ、厳しい批判の声があがりました。これ等の病根は同一ではないのか。この異常な様子が人々の思いに対し乖離を大きく広げている事を為政者は深く自覚すべきです。

私の町では昨年12月の議会に提出された『日本政府に核兵器禁止条約への参加・調印・批准を求める意見書』が審議され、賛成6、反対6と同数となるも議長が賛成に加わり可決成立しました。僅差とは言え時の政府に対し、地方自治体の明確な意志を表明できた事に町民の1人として誇りに思いました。過去の戦争による計り知れない犠牲の上に成り立つ日本国憲法、とりわけ第9条が掲げている精神は、国家の政治体制の違いに係わりなく、世界の人々の共通の願いです。それぞれの国の事情や体制に違いはあれど、その違いを越えて誠実に平和への行動を貫く事こそ我が国政府の使命であり、今を生きる私達国民の責務と自覚するが如何……。

（「全国首長九条の会ニュース」第18号）

《新ブックレット4月1日に発行！》

新ブックレット『菅政権の成立と改憲問題の新局面』は、布施祐仁、前田哲男の2氏の講演のほか、小澤隆一氏の発言、資料として3月の日米2+2合意文書、今年の敵基地攻撃能力保有に関する閣議決定、自民党政務調査会の提言を収録。

A5版64頁 500円（10部以上割引き）